

わたしを知ってくださるイエスさま

(ヨハネによる福音書 10:11-16)

主イエスは、「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。」と言われます。ここで「知っている」と訳されている単語は、ただ知識として「知っている」というのではなく、両者の深い交わりを表す単語です。主イエスは、わたしたち一人ひとりを知っておられる。それも「父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じ」ほどに、わたしたち一人ひとりのことを知っておられるということです。

主イエスは肉体をとられました。わたしたちの近くに来て、わたしたちと交わり、わたしたちを「知る」ためです。主イエスは、その交わりのなかで、ご自分の命を捨ててくださるほど、わたしたちを愛してくださいます。その交わりとは、心底愛している相手を知りたい、大切にしたい、という肉体も精神も含まれる全人格的な交わりです。相手を知るためには自分のあらゆる感覚、感情を持ち出さなければならないのと同じように、主イエスとの全人格的な交わりに身をおくなら、わたしたちは主イエスを、その愛を知ることができます。そして、その主イエスの愛を知るなら、わたしたちは神の愛をも知るのです。これは、主イエスがわたしたちと同じ肉体をとり、わたしたちのところへ来てくださったから実現することです。そして、このことのゆえに、主イエスこそがわたしたちのまことの良い羊飼いなのです。主イエスこそが、危険を犯してわたしたちのところへ来てくださり、ご自分の命を捨ててまでも、わたしたちをまことの愛へと導いてくださるからです。

良い羊飼いなる主イエスは、わたしたち一人ひとりのことを知っていてくださいます。そして、わたしたち一人ひとりと交わり、関わることを求めておられます。たとえわたしたちが主イエスを見失ったとしても、「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならぬ」と言われる主イエスは、必ずわたしたちを見つけ、わたしたち一人ひとりをご自身との交わりへと招いてくださいます。「羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる」と言われるように、わたしたちといつまでも関わり続け、神との深い交わりにある一つの群れへと導いてくださいます。